

聖徳太子伝

仏教の篤い信仰者・聖徳太子の生涯を描く

安田女子大学教授

杉本好伸 編

冠位十二階・十七条憲法の制定、四天王寺の建立、遣隋使の派遣など、
数々の事績・伝説を織り交ぜながら、聖徳太子の生涯を

仏教の篤い信仰者・興隆者という視点から生き生きと描いた伝記。

寛文六年版『聖徳太子伝』を全挿絵とともに完全翻刻。

国書刊行会

大光明耀き給へり。我入滅の後、一
年をへて、人皇四十五代の国王と生て、彼
転法輪の光明の所に、大なる仏をつくり、
大伽藍を作らん」

と、のたまひければ、小野大臣これを記
録しけるなり。つるに、「未来記」の御こ
とば、たがはず、聖武天皇とむれたまひ
て、日本第一の大伽藍、いまの東大寺を建
立し、金綱の十六丈の盧舎那仏を安置し給
ふなり。

明る日は、宇治橋をかけて、太子、行幸なり給ふ時に、いまの平等院の霊地、みそなはしてのたまはく、
「我入滅の後、四百余歳をへて、この所に、伽藍を建立あるべき地なり」

と、のたまひければ、まことに人皇六十六代のみかど、一条院の御時、御堂の関白道長の御願として、寛
弘八年に、いまの平等院をこころうし給へり。

こゝに、秦の川勝の眷属數十人、大秦楓野の大塚の里より、宇治川まで御むかひに参り奉る。袂服騎馬に
て、そのてい美麗にして、道中にみちふさがり、太子を拜謁したてまつる。その時、太子、左右の侍従に告



げてのたまはく、

「川勝が先祖は、もろこし秦始皇帝の氏族なり。しかも、その家、富饒にして、又、手づから組練ををれる
ゆへに、衣服、美研なり。これ、天下国家の重宝なり」

(と)。木の郡にいたりて、川勝の眷属、各、太子に清養を献じ、宴をすゝめ奉る。陪従輿台より已上二百
許りの人、皆ことごとく酔ひ飽きければ、太子、大さによろこび給ふ。

その日、山城国太秦楓野の大塚の里に、臨幸ならせたまひて、楓の林を御覧あるに、御夢のごとく、楓
林の中に、空虚なる枯木あり。変じて、微妙の浄土となる。五百の賢聖、羅漢、並み居て、大乘の經典を誦
し、常に天人充滿して、妙花を捧ぐ。凡夫は蜂虫と見たてまつれども、太子は淨刹と見えなはし給ふ。不思
議なる霊地なり。

此所に大伽藍を建立すべしとおぼしめして、まづ、仮の宮をいとなませたまふ。不日にして、造りをはん
ぬ。太子、仮の宮にましく、左右の侍従に語つてのたまはく、

「我、此地を相するに、国中の秀地なり。南は閉きて朱雀の地、北は塞つて玄武の峰あり。河、その前にわ
たり、東にながれて順をなす。高岳の上に、竜神、窟宅をなして、常にのぞむて、守護したまふ。東に蔵神
あり、西に猛霊の神をあふぐ。四神相應の霊地にして、皇居ならびに伽藍守護の神明、諸方にさきだちまし
くて現じたまへり。二百年の後、一人の聖王あつて、ふたたび此所に都をうつし、王法相續して、旧軌を
おとさず、仏法興隆して、伽藍安穩ならん」。

●組見本 (66%)

篤く三宝を敬へ

三宝とは仏法僧なり

(「十七条憲法」第一条より)

聖徳太子伝

杉本好伸 編

A5判・上製・函入 定価・本体8000円十税

ISBN 978-4-336-05290-2

目次より

- 一 歳 聖徳太子御入胎ならびに御誕生靈瑞の事
 - 二 歳 二月十五日南無仏を唱へたまふ事
 - 六 歳 百済国より経論渡したてまつる御拝読の事
 - 八 歳 新羅国より釈迦三尊渡したてまつる事
 - 十三 歳 太子三尼を度して出家せしむる事
 - 十四 歳 善光寺如来の事
 - 十六 歳 用明天皇崩御の事 守屋対治の事
 - 二十三 歳 推古天皇三宝を興隆し仏寺を造らしめたまふ事
 - 二十五 歳 中宮寺御建立ならびに法華経落字の事
 - 三十 歳 斑鳩宮御造営の事
 - 三十三 歳 十七ヶ条憲法御製作の事 太秦広隆寺御建立の事
 - 三十六 歳 小野大臣妹子を衡山に遣はして先身御所持法華経
ならびに御道具等将来の事
 - 三十八 歳 勝鬘経疏御製作の事
 - 四十一 歳 維摩経疏始めて御製作の事
 - 四十三 歳 法華経疏始めて御製作の事
 - 四十五 歳 太秦広隆寺御本尊靈験の事
 - 五十 歳 御入滅ならびに御葬送の事
- 聖徳太子系図
聖徳太子御建立四十六ヶ所寺院



写真上：紙本着色聖徳太子(馬上太子)像(室町時代)(叡福寺)
表写真：木造彩色南無仏太子(2歳)像(叡福寺)



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

http://www.kokusho.co.jp
sales@kokusho.co.jp

書店印

国書刊行会 『聖徳太子伝』 を注文します。

注文数	お名前
	ご住所
	お電話